コートジボワール国月報（２０１６年５月）

|  |
| --- |
| 主な出来事【内政】●１日、ウワタラ大統領は、大統領官邸において、メーデーの祝賀を執り行った。スピーチの中で、国民の間で不満が出ていた電気料金の値上げ及び運転免許証の更新措置に関し、それぞれ取り消し及び延期を発表した。●３１日、ウワタラ大統領は、１０名の専門家からなる新憲法案作成のための委員会を設置した。１か月を期限として、ウワタラ大統領に対し新憲法案を提案する。【外政】●２３日、サーリーフ・リベリア大統領がコートジボワールを実務訪問した。ウワタラ大統領との会談では、６月４日にダカールで開催予定のＥＣＯＷＡＳ首脳会合で議論される課題につき協議した。●３１日、ウワタラ大統領は、サリフ・ディアロ・ブルキナファソ国民議会議長率いる代表団の表敬を受けた。両国は、７月末に開催予定の友好条約のための首脳会議の準備を再開することに合意した。【経済】●１７－１８日、パリでコートジボワール援助国（ＣＧ）会合が開催され、国家開発計画２０１６－２０２０実現のために、開発パートナー１５４億ドル、民間資金１９０億ドルの資金供与が発表された。【対日関係】●２日、日本の民間企業及び公的機関のミッションがコートジボワールを訪問し、同国の官民両セクターからの参加者も交えて、質の高いインフラに関するセミナーが開催された。●６日、川村大使はコネ経済・財政担当大臣に５億４０００万円相当の食糧援助米を引き渡した。 |

【内政】

・１日、ウワタラ大統領は、大統領官邸において、「メーデー」の祝賀を執り行った。スピーチの中で、大統領は、国民生活の向上のために行ってきたこれまでの実績（最低賃金の上昇、公務員の給与の引き上げ、保健・教育・道路インフラ分野への投資、国民皆保険の導入等）について述べるとともに、国民の間で不満が出ていた電気料金の値上げ及び運転免許証の（有効期限が切れる前の）更新措置に関し、それぞれ取り消し及び延期を発表した。この発表は、聴衆の間で歓声をもって受け止められた。（フラテルニテ・マタン紙）

・１１－１５日、コネ連帯・社会的結束・被害者賠償大臣はガーナを訪問し、バグボ元大統領派のコートジボワール人難民に対し、祖国への帰還を促した。ガーナには１万１０００人のコートジボワール人難民がいるが、昨年９月以降、ＵＮＨＣＲによる難民キャンプへの食糧援助は、コートジボワールに平和が戻ったという理由で停止されている。（フラテルニテ・マタン紙）

・２６日の閣議で、本２０１６年の選挙人リストの改訂期間を、独立選挙委員会（ＣＥＩ）の提案通り、６月２５日から７月２４日と決定した。（フラテルニテ・マタン紙）

・同２６日、バカヨコ内務・治安大臣（国務大臣）は、コミュニケで、グラン・バッサムのテロ襲撃事件の際の武器を運搬した車両の運転手が逮捕された旨発表した。同車両はバマコ（マリ、２０１５年１１月）及びワガドゥグ（ブルキナファソ、２０１６年１月）の襲撃の際にも使われたとみられる。（フラテルニテ・マタン紙）

・２６日、コートジボワール最高裁判所は、シモーヌ・バグボ前大統領夫人の上告を棄却し、「国の安全に対する侵犯の罪」で懲役２０年の刑が確定したと、同夫人の弁護士が公表した。（アビジャン発ＡＦＰ）

・３１日、ウワタラ大統領は、１０名の専門家からなる新憲法案作成のための委員会を設置した。１か月を期限として、ウワタラ大統領に対し新憲法案を提案する。この間、ウワタラ大統領は野党、伝統的首長会議、宗教首長、市民社会代表らと協議して意見を聞き、これら意見は同委員会に伝えられる。委員長はウラガ公法・社会科学教授が務めるほか、カンビレ司法大臣、バコンゴ元公務・行政改革大臣等が委員を務める。（フラテルニテ・マタン紙）

【外政】

・２日、ウワタラ大統領は、アルジェでブーテフリカ大統領と会談し、二国間関係やテロとの戦いについて議論した。今次訪問は、コートジボワールの国家元首として初めてのアルジェリア訪問。この機会に、二国間では農業、技術教育・職業訓練、及び政治協議に関する協定が署名された。（フラテルニテ・マタン紙）

・１９日、ウワタラ大統領は、ンゲマ・赤道ギニア大統領の再任の就任式に出席する途次、アビジャンに立ち寄ったイスフ・ニジェール大統領と空港で会談した。両大統領は、域内の治安問題、とりわけテロ組織との戦い、及びロメ＝コトヌ＝ニアメ＝ワガドゥグ＝アビジャンを結ぶ鉄道敷設計画等について協議した。（フラテルニテ・マタン紙）

・２３日、サーリーフ・リベリア大統領が、コートジボワールを実務訪問した。ウワタラ大統領との会談では、６月４日にダカールで開催予定のＥＣＯＷＡＳ首脳会合で議論される課題につき協議した。（フラテルニテ・マタン紙）

・２７日、ウワタラ大統領は、アビジャンで、西アフリカ経済通貨同盟（ＵＥＭＯＡ）内の平和と治安に関する閣僚級会合を開催した。同会合にはサル・セネガル大統領が出席した。閣僚らは、６月５日にダカールで開催予定のＵＥＭＯＡ臨時首脳会合において、ＵＥＭＯＡ内の平和と治安のための宣言と行動計画案を採択することを提言した。（フラテルニテ・マタン紙）

・３１日、ウワタラ大統領は、サリフ・ディアロ・ブルキナファソ国民議会議長、シモン・コンパオレ国土行政・地方分権・国内治安担当国務大臣及びアルファ・バリー外務・協力・在外ブルキナファソ人大臣から構成される代表団の表敬を受けた。ウワタラ大統領は、カボレ・ブルキナファソ大統領のメッセージを受けて、両国は７月末にヤムスクロで開催予定の友好条約のための首脳会議の準備を再開することに合意したと述べた。（フラテルニテ・マタン紙）

【経済】

・１３日、ダンカン首相は、１日にウワタラ大統領から表明された電気料金の値上げ取り消しに関して、今後、新価格が採用されることを発表した。政府は電力部門に競争を導入する意向を持っているものの、法案の審議に時間を要している。（フラテルニテ・マタン紙、ランテール紙）

・１７日、パリでコートジボワール援助国（ＣＧ）会合が開催された。初日は公的部門のセッションとして、世界銀行、アフリカ開発銀行、ＥＵ、イスラム開発銀行、西アフリカ開発銀行、アフリカ経済開発アラブ銀行、仏、米、日、韓、独などが参加。国家開発計画（ＰＮＤ）２０１６－２０２０実現のために必要な資金として、「コ」政府の希望額を上回る１５４億ドルがコミットされ、ダンカン首相は謝意を表した。（フラテルニテ・マタン紙、ランテール紙、ル・ヌーヴォー・レヴェイユ紙、ル・パトリオット紙）

・１８日、ＣＧ会合２日目には民間部門が参加した。ＰＮＤ２０１６－２０２０の必要資金のうち６２％（３７５億ドル）を民間資金から動員したいとする政府目標に対し、コミット額は１９０億ドルとなった。（フラテルニテ・マタン紙、ランテール紙、ル・パトリオット紙）

【対日関係】

・２日、日本の民間企業１８社約３０名及び公的機関のミッションがコートジボワールを訪問し、「コ」の官民両セクターからの参加者も交えて、質の高いインフラに関するセミナーが開催された。平野ＪＥＴＲＯ理事は、日本は地域経済の中心地である「コ」に関心を寄せていること、川村大使は、インフラ整備に強みを持つ日本の経験が「コ」でも活かせるとの期待を述べた。（フラテルニテ・マタン紙）

・６日、川村大使はコネ経済・財政担当大臣に５億４０００万円相当の食糧援助米を引き渡した。米の売り上げは見返り資金としてコートジボワールの経済社会開発プロジェクトに活用される。（フラテルニテ・マタン紙）